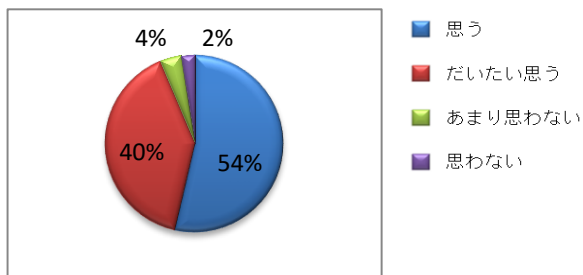


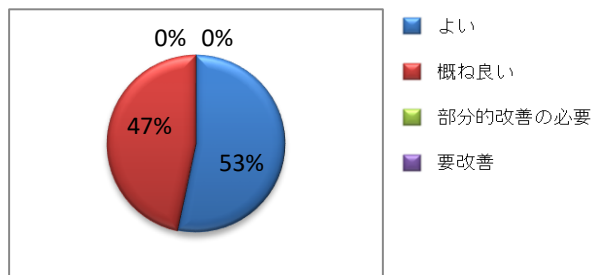
R05 学校自己評価 中間報告(1学期・全校児童・職員)

1 学校満足度

(1) 学校は楽しいですか。(児童)



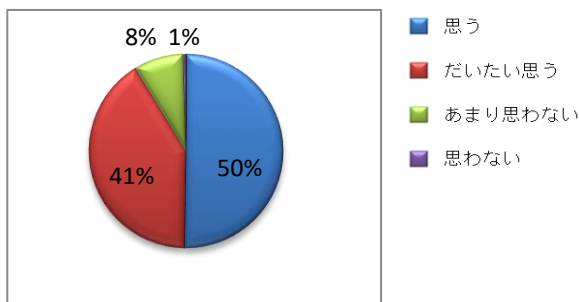
(1) 子どもたちが楽しく学校生活を送れるよう様々な面で配慮をしていますか。(職員)



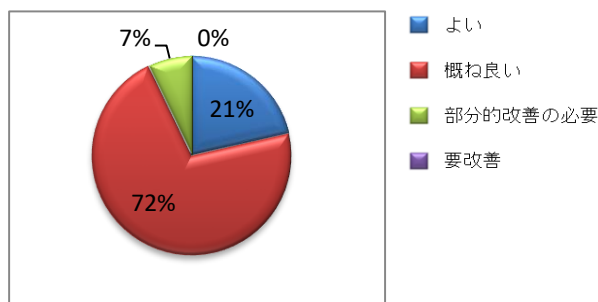
【考察】

全校の90%以上の児童が、学校を楽しんでいる。また、前回の調査と比較して、「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答した子の割合が減少している。職員の回答も、「子どもたちが楽しく学校生活を送れるよう配慮している」というものが大きく増加した。引き続き、子どもたちにとって楽しく、居心地のいい学校づくりを進めていきたい。

(2) 先生は勉強を分かりやすく教えてくださいますか。(児童)



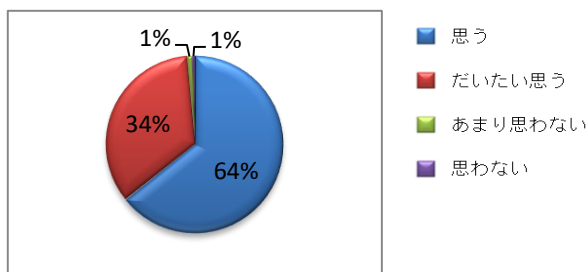
(2) めあてをはっきりと提示し、友だち同士の関わり合いを工夫し、まとめの時間をとる努力をしていますか。(職員)



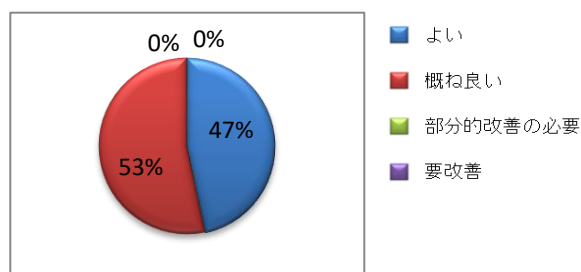
【考察】

前回の調査と比較して、「授業がわかりやすい」と感じている子の割合が減少し、「わかりにくい」「わからない」と回答した子の割合が増加した。職員の共通意識として、UD化を推進し、児童一人一人が授業のゴールまでの見通しを持ち、安心して授業に取り組めることを目指してきているが、それが子どもたちにとって実感できるような更なる工夫が必要と感じる。

(3) 先生は、困った時に相談に乗ってくれますか。(児童)



(3) 日頃から子どもたちに声をかけたり、保護者との連絡をこまめにし、子どもや保護者に寄り添いながら相談しやすくしていますか。(職員)

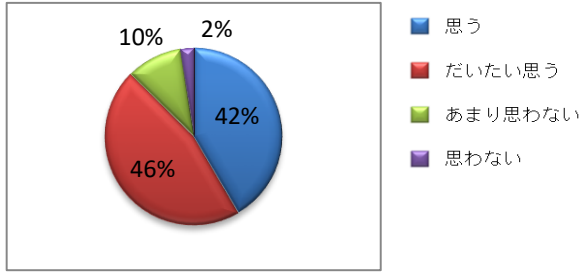


【考察】

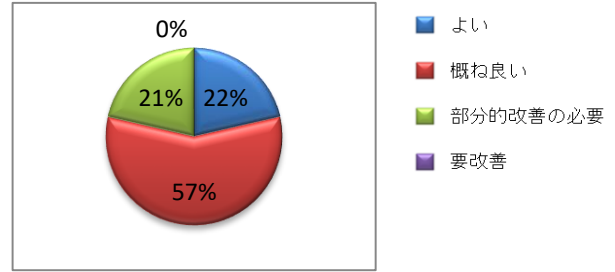
前回調査とあまり変わりなく、多くの児童が「困ったときは先生が相談に乗ってくれる」と、教師への信頼を寄せていることがわかる。この信頼を裏切らないよう、引き続き真摯に子どもたちと向き合っていきたい。

2 学習

(1) 学習に進んで取り組み、自分の考えを友だちに伝えていますか。(児童)



(1) 子どもたちが学習に意欲的に取り組み自分の考えを持ち、その考えを伝え合う場を設定していますか。(職員)

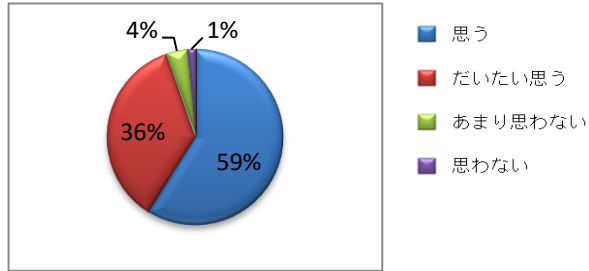


【考察】

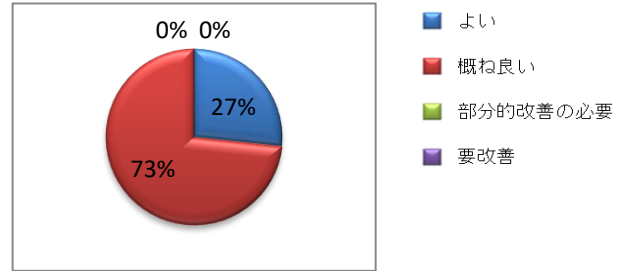
前回に比べ、「思う」「だいたい思う」の割合が増え、「あまり思わない」「思わない」の割合が減少した。コロナ感染流行が少しずつ収束方向に進み、授業でもグループ等での話し合いをする場面が徐々に増えていることによるものか。

3 自尊心

(1) 先生や友達は、頑張っていることを褒めたり励ましたりしてくれますか。(児童)



(1) 子どもの努力を教師自らが認め、励ますと共に、子ども同士がそれぞれの努力を認め、励まし合える環境を作っていますか。(職員)

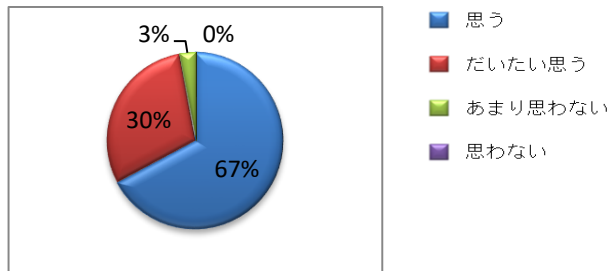


【考察】

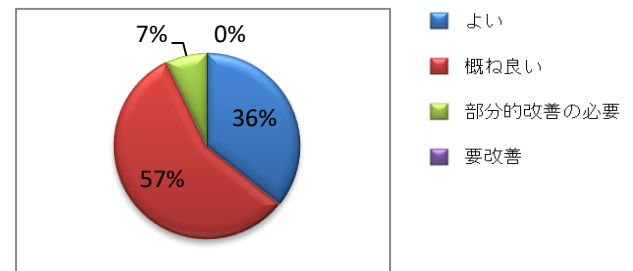
設問1-(1)「学校は楽しいか」と似通った回答比率になっている。内訳は必ずしも一致してはいないが、「自分の存在を認められている」という自己有用感が、集団の楽しさや満足感につながっていくと思われる。

4 心と体

(1) 学習や運動で最後まで諦めずに取り組んでいますか。(児童)



(1) 学習や運動で、最後まであきらめずに取り組めるようにしていますか。(職員)

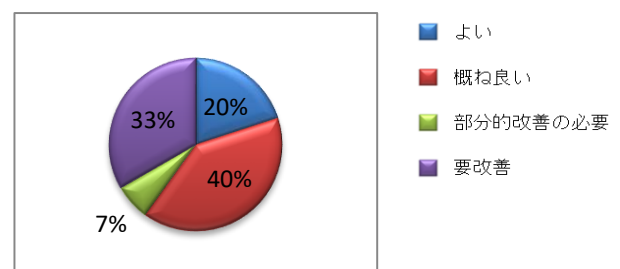


【考察】

多くの子どもたちが「自分がんばっている」という実感を持っているようである。前回調査に比べて、「取り組んでいない」と回答した子の割合が減った。職員の意識も、向上している。今後も、粘り強くがんばっている場面をできるだけ見逃さず、褒めたり認めたりしていきたい。

5 地域との連携

(1) 地域講師の支援により、ふるさと体験学習を充実させていますか。(職員)



【考察】

コロナ感染流行の収束に伴い、学社ともに手を携えて子どもを育てていく、本来の本校の姿に戻す時が来た、という職員の意識の表れか。ただし、何もかもコロナ前に戻すのではなく、コロナ禍の中で見えてきたものも今後にならして、さらに一歩進んだ学社連携をめざしていきたい。